



奥尻町ゼロカーボンシティ宣言

- 2050年 二酸化炭素排出量実質ゼロを目指して -

近年、地球温暖化を起因とする気候変動は、世界中の人々や生態系に影響を与える深刻な問題となっており、国内においても深刻な自然災害が頻発し、さらなる激甚化されることが予測されることから、もはや全国民が当事者として認識すべき世界的な喫緊の課題で、地球温暖化抑制に関する意識も急速に高まりつつあります。

2015年に合意されたパリ協定では2020年以降の温室効果ガス排出削減のための国際的な枠組みが規定され、昨年11月に開催されたCOP26では平均気温上昇1.5℃に抑える目標に向かって努力することが正式に合意され、この目標を達成するための取組が世界全体で加速しています。

日本国内においては令和2年10月に「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする（2050年カーボンニュートラル）、脱炭素社会の実現を目指す」ことが国会で宣言され、同年12月には「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が策定されたことで、環境対策が産業構造の大転換と力強い成長を生み出すと位置づけられました。

奥尻町は、これまで地熱や木質バイオマスといった地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入を推進し、低炭素の地域づくりの実現を目指してきました。

本町は離島が故に必ずしも恵まれている環境にはありませんが、周辺海域の豊かな水産資源やこの豊かな自然環境を子どもたちや未来へ引き継ぐためにも温暖化対策へ積極的に取り組むことが重要であります。

第6期発展計画の基本理念と将来像としている「ともに 守り、育てる」、「島を受け継ぎ、島をつくる」の実現と将来にわたり豊かな自然と人とが共生・調和できるよう、2030年の削減目標を確実に達成し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、奥尻町一丸となって取組を推進することをここに宣言します。

令和4年12月6日

奥尻町長 